

4月18日に、本校6年生92名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめられました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語、算数ともに全国、京都府の平均正答率を大きく上回りました。無回答率も極めて低く、粘り強く考えようとしていたことがうかがえます。5年生時のジョイントプログラムの結果からも安定して力がついていると言えます。

国語科より

全体として全国平均回答率を大きく上回っています。特に言葉の特徴や使い方、話すこと・聞くことに関しては多くの児童が正解していました。しかし、国語を苦手としている児童は自分の考えをまとめて書くということに課題があるという結果が出ました。今後の授業では、複数の資料から目的に合う情報を抜き出してまとめる活動を進めていく必要があります。

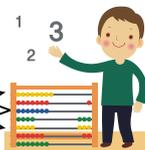
複数の資料を読んで、
まとめよう



算数科より

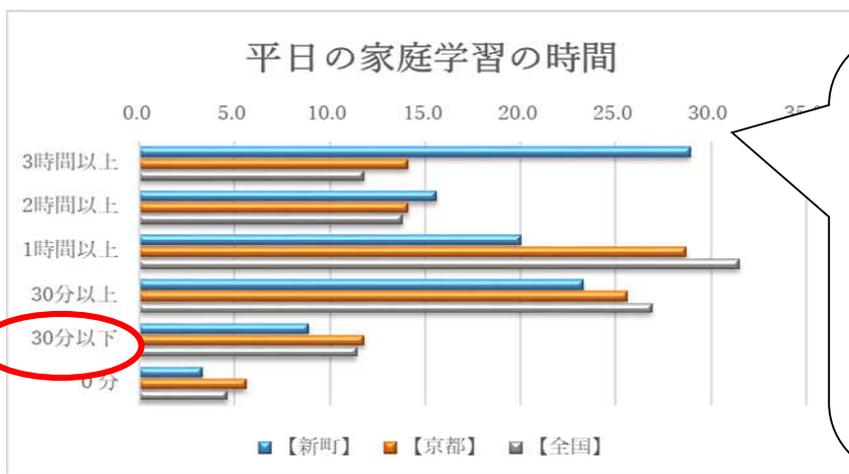
全体的によくできています。特に算数に関する知識や技能はほとんどの問題で満足できる正答率となりました。全国的にも低かった問題ですが、図形の問題2（4）は本校も低かったです。※問題は児童が持ち帰ったものをご覧ください。テープに描かれた三角形で高さが同じため底辺の長さが等しいのなら等しい面積となることの説明ができませんでした。今後、知識を得て問題を解くだけでなく、説明を伴う授業展開を考えていきたいです。

なぜならば…



児童質問紙調査から ①

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか（塾・家庭教師含む）

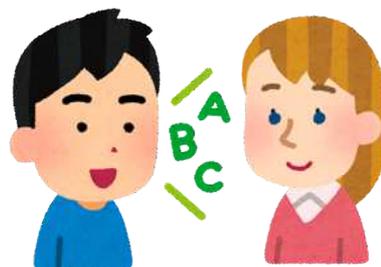
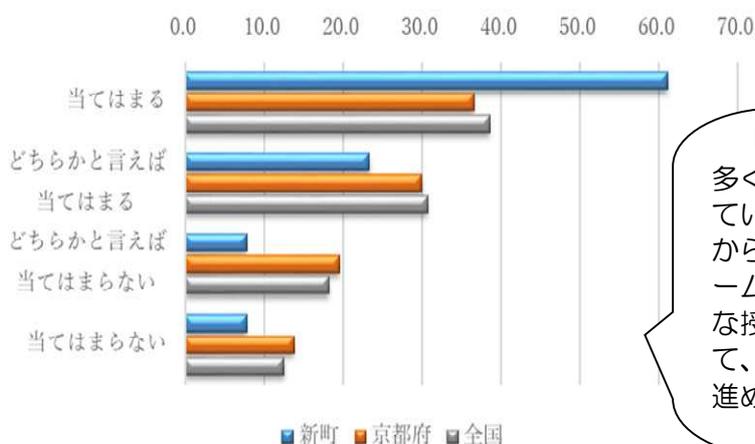


上記グラフで家庭学習の時間を本校（上）と京都府（中）と全国（下）で比べたところ、授業以外で「1日3時間以上勉強する」と答えた本校児童の割合は、全国平均と比べてかなり上回っている一方で、「30分未満」「全くしない」と答えた児童も少なからずいます。特に休日の学習時間の設定をお願いしたいです。

児童質問紙調査から ②

Q 英語の勉強は好きですか

英語の勉強は好きですか？



「英語の勉強が好き」という児童がかなり多く、京都府、全国の回答率を大きく上回っています。これは日常の英語の授業が楽しいからと考えます。単純な繰り返しでなく、ゲームがあり、発表があり、対話がありと多様な授業を進めています。中学校とも連携をして、今後も楽しいと思って取り組める授業を進めていきます。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、「自ら進んで考え、ともに高め合い、夢に向かって歩む子の育成」という学校教育目標を掲げ、日々の学習や行事を計画し、進めています。学校だけでなく、家庭も地域全体も子どもたちの主体的な成長を支える存在として、多大な協力をいただいている成果が本調査に表れているのだと考えます。

その主体となる子どもたちですが、「自分で学習する習慣」は身につけているのでしょうか。平日、休日の家庭学習の時間は京都府や全国よりも多く、学習の必要性は理解していると思います。この学習の中身が重要で、与えられたことを指示通りにするのでは今後生きる力とはなりません。英語が好きな新町の児童ならば、学校での学習を越えて、ネイティブと話すことやインターネットで英語のコンテンツを見ることに取り組んでほしいです。学習は自らの現在と将来のために行うものであると理解し、計画・実践していけるよう学校でもサポートを行っていきます。この計画と実践のサイクルが習慣となることが学力向上に寄与すると考えています。

一方、一定改善してきたとはいえ、予習・復習など学校の授業以外で学習を全くしない児童も依然として多く、6年生だけでなく、本校全体の大きな課題となっています。学習における基礎基本は地道な努力が必要です。学校での学習時間だけでは十分でないことも基礎基本が定着していないことの一要因です。もちろん児童自身の努力が一番ですが、今後も継続して学校と協力していただき、児童の課題が何かを共有し、タッグを組んで進めていきたいと考えております。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、学力は非常に高いものであると分かります。その現状に満足することなく、これからの社会で活躍するために必要な力を身につけていくためにも引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。